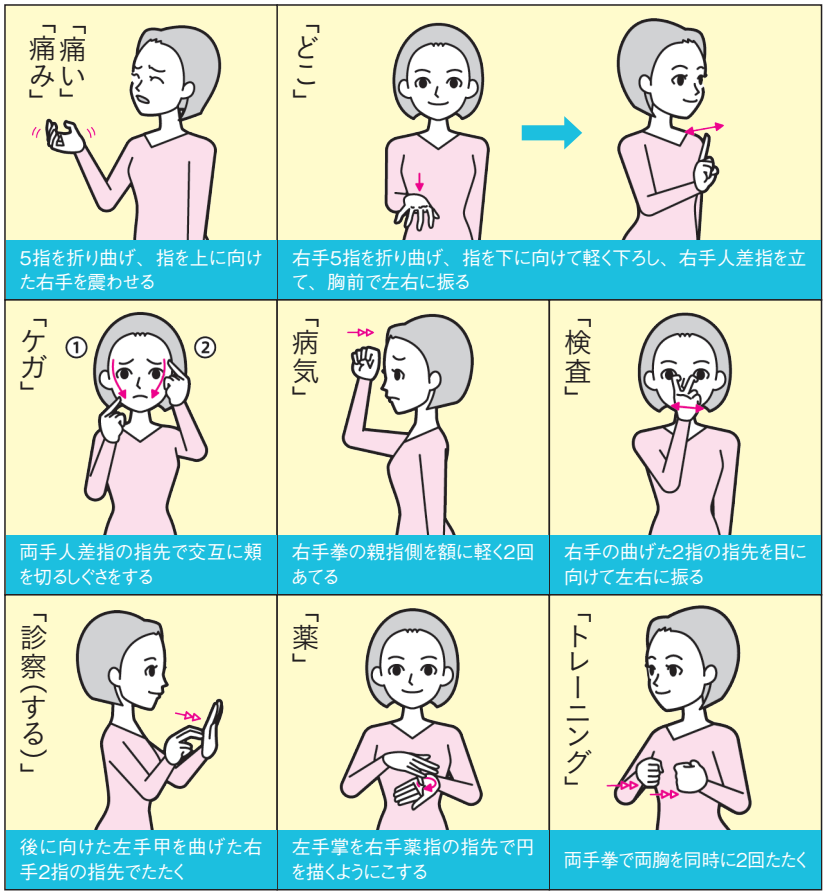
メディカルサポートに関する覚えてほしい手話単語



(一財)全日本ろうあ連盟発行『わたしたちの手話学習辞典I』より転載

発 行　全日本ろうあ連盟スポーツ委員会医科学委員会

https://www.jfd.or.jp/sc/

デフリンピック紹介パンフレットもご覧下さい。QRコード

このパンフレットは平成30年度スポーツ庁委託事業「障害者スポーツ推進プロジェクト(障害者スポーツ団体の連携及び体制整備への支援事業)」の一環で作成しました。

聞こえないスポーツ選手のメディカルサポートについて

一般財団法人全日本ろうあ連盟
スポーツ委員会医科学委員会

はじめに…

デフリンピック(Deaflympics)とは?

耳の聞こえない選手のための国際的なスポーツ大会です。
「Deaf」は英語で耳が聞こえない人という意味です。
オリンピックと同じように4年に一度、
夏季大会と冬季大会が2年ごとに交互に開催されます。
競技ルールはオリンピックと同じルールですが、聞こえない選手のための
視覚的保障がなされた競技環境があることがデフリンピックの特徴です。

聞こえない人が 受診時に困ること

1 予約

医療機関に連絡したいが、電話番号しか掲載されていないため連絡手段がない

解決策

● FAX やメールなどでも連絡が取れるよう FAX 番号、メールアドレスの表記をする

2 呼び出し

待合室や診察室の前など、口頭で名前を呼ばれてもわからない

解決策

●受付番号モニターで表示するなど情報を可視化
●受付時にお知らせランプまたはバイブレータを用意
●機械の設置が難しい場合は直接選手本人のところまで呼びに行く

3 診察-その①

診察中、マスクをしたまま説明されるため、口の動きが読めない

解決策

●マスクを外す
●絵カードなどを作成してコミュニケーション
●「どうされましたか」といった漠然な質問は答えに困る聞こえない人もいるため、可能な限り具体的な質問で、Yes/No で答えられるように工夫する

4 診察-その②

選手本人ではなく、付き添いの人や手話通訳に向かって話しかけられる

解決策

●主体は選手本人なので、通訳者や家族に伝えるのではなく、本人に伝える（筆談などの方法があります）
●選手本人と目を合わせて説明をする

5 会計・処方

大声で話しかけられる

解決策

●聴力のレベルによるが、音は分かるが何を言っているのか聞き分けが難しい場合が多い。声のボリュームを大きくすればよいというものではない

聞こえない人へはしっかり確認を!

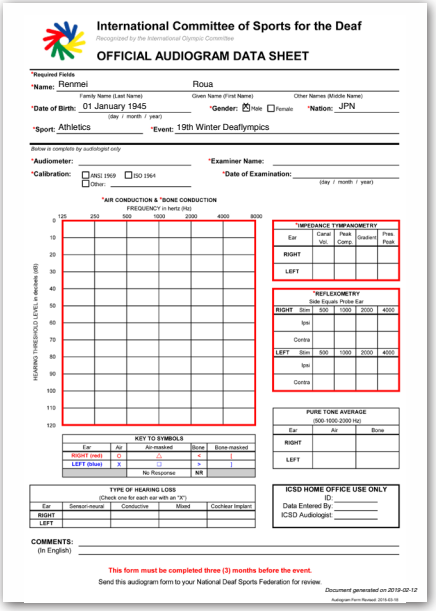
診察結果や病状の説明を口頭で行うときは、聞こえない人は口形を読みとらざるを得ないため、内容が正しく伝わらないときがあります。説明内容を口頭だけでなく、筆談を使ったり、説明文を指で示しゆっくり読んでもらうなど、誤解のないようにお互いに通じあっているか、繰り返し確認をすることが必要です。

聴力検査

聞こえない選手の国際大会に出場するにはいくつかの条件があります。例として、デフリンピックへの参加条件は『補聴器または人工内耳を外した状態で、両方の耳のうち聞こえている方の耳の平均聴力レベル（PTA）が55dB 以上の聴覚障害を有する（500, 1000, 2000 ヘルツの三つの純音平均聴力レベル、気導、ISO1969 基準）ろう者であること』です。このことを証明するためには **ICSD（国際ろう者スポーツ委員会）公式オージオグラムの書式を使用し、医療機関で「聴力検査」を受けなければいけません。**

必要な検査項目

1. 気導
2. 骨導
3. ティンパノグラム（ティンパノメトリー）
4. 耳小骨筋反射（リフレクソメトリー）



International Committee of Sports for the Deaf

Recognized by the International Olympic Committee

OFFICIAL AUDIOGRAM DATA SHEET

*Required Fields

*Name: Renmei (Family Name (Last Name)) Roua (Given Name (First Name)) (Other Names (Middle Name))

*Date of Birth: 01 January 1945 (day / month / year) *Gender: ☒ Male ☐ Female *Nation: JPN

*Sport: Athletics *Event: 19th Winter Deaflympics

Below is complete by audiologist only

*Audiometer: *Examiner Name:

*Calibration: ☐ ANSI 1969 ☐ ISO 1964 ☐ Other: *Date of Examination: (day / month / year)

*AIR CONDUCTION & *BONE CONDUCTION

FREQUENCY in hertz (Hz): 125 250 500 1000 2000 4000 8000

HEARING THRESHOLD LEVEL in decibels (dB): 0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100 110 120

*IMPEDANCE TYMPANOMETRY

Ear	Canal Vol.	Peak Comp.	Gradient	Pres Peak
RIGHT				
LEFT				

*REFLEXOMETRY

Side Equals Probe Ear

		500	1000	2000	4000
RIGHT	Stim				
	Ipsi				
	Contra				
LEFT	Stim				
	Ipsi				
	Contra				

PURE TONE AVERAGE

(500-1000-2000 Hz)

Ear	Air	Bone
RIGHT		
LEFT		

KEY TO SYMBOLS

Ear	Air	Air-masked	None	Bone-masked
RIGHT (red)	O	△	<	[
LEFT (blue)	X	□	>	]
		No Response	NR	

TYPE OF HEARING LOSS

(Check one for each ear with an "X")

Ear	Sensori-neural	Conductive	Mixed	Cochlear Implant
RIGHT				
LEFT				

ICSD HOME OFFICE USE ONLY

ID:

Data Entered By:

ICSD Audiologist:

COMMENTS: (In English)

This form must be completed three (3) months before the event.

Send this audiogram form to your National Deaf Sports Federation for review.

Document generated on 2019-02-12

Audiogram Form Revised: 2016-03-18

※日本では、聴力レベル 70dB 以上から身体障害者手帳の交付を受けられますが、それ以下だからといって聞こえるということではありません。デフリンピックの参加資格は上に書いたように聴力レベル55dB以上ですので、世界との基準の違いがあります。

健康診断

大会に参加する選手及びスタッフは、健康診断を行います。
そのうち臨床検査項目は主に以下の通りです。

●心電図検査 ●胸部X線 ●肺機能検査（※）
●尿検査 ●血液検査 ●生化学検査

（※）肺機能検査は難しい!

肺機能検査は主にスパイロメトリーを用います。検査技師から「息を吸う」「吐く」「吐き続ける」といった指示が聞こえないので、指示通りに行うことが困難です。

聞こえない人にとっては特に難しい検査なので、一度身振りで手本を見せる、練習する時間をつくるなど、準備をしてから検査をすることが望ましいです。

選手のドーピング防止活動をしています

- JADA（日本アンチ・ドーピング機構）や専門機関の認定商品を推奨
- Global DROで医薬品を検索（ただし医療用医薬品のみ）
- 公益財団法人日本スポーツ協会が発行している「使用可能薬リスト」を参照
- スポーツファーマシストに相談
- 薬剤師会アンチ・ドーピングホットラインで相談
- 日本スポーツ振興センター（JSC）のドーピング通報窓口に通報
- 場合によっては TUE（治療使用特例／Therapeutic Use Exemptions）申請

聞こえないスポーツ選手の特徴

▶バランスの悪い人の割合が多い*①

成人の聞こえない人に対して、専門的な耳鼻科領域の検査を行った結果、約 30% 程度に前庭機能の低下、または機能がない人がいることがわかっています。

また、バランステストとして用いられる片脚立ちテストを行うと、成人の聞こえない人は聞こえる人と比べて目を閉じた時に持続時間が短い人が多いことがわかっています。

より専門的なバランスを調べる重心動揺検査においても、目を閉じた状態では聞こえる人と比較して体の動揺が大きくなる人が多くいます。

▶目の使い方は優れている*②

聞こえない人のスポーツビジョン測定の結果は、8 つの測定項目の中でも、「DVA 動体視力（横方向）」はとても優れています。

聞こえない人は日頃より視覚からの情報を多く取っています。その中でも、横方向の目の使い方が優れているということがわかっています。

＊①②：中島幸則（筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター准教授）他、成人の先天性聴覚障害者の平衡機能と視機能の評価 . 日本臨床スポーツ医学会誌 .Vol.18,No.2.297-304.

聞こえない選手が困った事例

〈例:バスケットボール〉

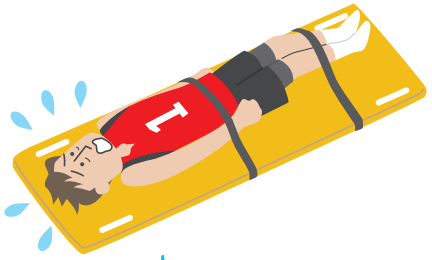
試合中に相手チームの選手と衝突し転倒

↓

聞こえない選手だと理解されず、気が付くと担架に乗せられ手足が固定されていた

↓

手が固定されていたため手話ができず、パニックになり過呼吸に



担架に乗せる際、意識があり上肢のケガがない場合、肘から先は自由に動かせるようにしてください

〈例: バレーボール〉

ボールを受けとめようとお互いに同じ方向を向いていた。聞こえない選手は視野が広いものの、後ろが見えるわけではなく、ボールに集中していて音や声、合図がわからず、ぶつかってしまうことがある

〈救急場面〉

- 肩や手にケガをしてしまい、手話ができず意志が伝えられなかった。（確認のために肩を動かそうとされても止められなかった）
- 救急隊員がマスクをしていてコミュニケーションが取れなかった。
- 「耳は聞こえますか？」と聞かれて聞こえないという身ぶりをしたら、落車が原因で耳が聞こえなくなったと勘違いされた。（例:自転車競技）